

科目名	総合日本語 I						
科目名(英)							
単位数	20単位	時間数	300時間	担当者	村上・柴藤・檜崎		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	初級日本語の学習経験がある学生を対象とする。「みんなの日本語初級Ⅱ」「中級へ行こう」を使用して、初中級(N4~N3)レベルの文法・語彙・聴解・会話表現を総合的に学習し、実際に日常生活で使えるようになることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				N4~N3レベルの言葉や文法を覚え、使うことができる。	
	○	○				日常的な文章を読んでほしいの内容が理解できる。	
	○	○				身近で日常的な話題についての会話が理解でき、参加することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中よね他/『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊』/スリーエーネットワーク/2018年</li> <li>・平井悦子他/『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 書いて覚える文型練習帳』/スリーエーネットワーク/2014年</li> <li>・田中よね他/『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説』/スリーエーネットワーク/2016年</li> <li>・大越泰子/『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 標準問題集』/スリーエーネットワーク/2013年</li> <li>・平井悦子・三輪さち子/『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』/スリーエーネットワーク/2017年</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1 ~ 20	プレイメントテスト・オリエンテーション・ 初級項目(「みんなの日本語初級Ⅰ」)復習			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	21 ~ 40	「みんなの日本語初級Ⅱ」 第26課~第30課			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	41 ~ 60	「みんなの日本語初級Ⅱ」 第31課~第35課			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	61 ~ 80	「みんなの日本語初級Ⅱ」 第36課~第40課			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	81 ~ 100	「みんなの日本語初級Ⅱ」 第41課~第45課			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	101 ~ 120	「みんなの日本語初級Ⅱ」 第46課~第50課			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
	121 ~ 135	「中級へ行こう」第1課~第5課			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)		
136 ~ 150	「中級へ行こう」第6課~第10課			授業の前に該当範囲の文法解説書を読み、授業後は指定された宿題を行うこと。(1時間)			
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
確認テスト	◎	◎				50%	
履修上の注意							

科目名	会話 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	村上・柴藤・檜崎		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	『みんなの日本語』の学習進度に合わせて、習った言葉や文型を使って話す練習をする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				驚き、嬉しさなどの自分の気持ちとその理由を簡単な言葉でせつめいすることができる。	
	○	○				身近で日常的な話題(趣味や週末の予定など)について会話ができる。	
	○	○				準備をしていればフォーマルな場で短いスピーチをすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	田中よね他 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版』 本冊 スリーエーネットワーク 2012年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第26課～第28課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	2	第29課～第31課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	3	第32課～第34課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	4	第35課～第37課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	5	第38課～第40課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	6	第41課～第43課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	7	第44課～第46課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	8	第47課～第48課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
	9	第49課～第50課			習った会話を実際の場面で積極的に使うこと(0.5時間)		
10	確認テスト・復習						
評価方法	(1)会話作成・発表(積極性・内容) (2)確認テスト(口頭) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	会話作成・発表	◎	◎		◎		50%
	確認テスト	◎	◎		◎		50%
履修上の注意							

科目名	聴解 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	村上・柴藤・檜崎		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	総合日本語でN4レベルの学習をした後に、日本語能力試験対策として実施する。 日本語能力試験N3の問題を数多く解くことで、試験の傾向や特徴をつかみ、N3に合格できる語彙力を養成する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					具体的な課題解決に必要な情報を聞き取り、次に何をすればいいのかわかる。	
	○					事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができる。	
	○					テキスト全体から話者の意図や主張などが理解できる。	
	○					イラストを見ながら、状況説明を聞いて、適切な言葉が選べる。	
	○					質問などの短い発話を聞いて、適切な応答ができる。	
テキスト・教材 参考図書	・棚橋明美、杉山ますよ、野原ゆかり 著 『スピードマスターN3 聴解』 Jリサーチ出版 2010年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「スピードマスターN3聴解」 課題理解 1～8			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	2	「スピードマスターN3聴解」 課題理解 9～16			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	3	「スピードマスターN3聴解」 ポイント理解 1～8			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	4	「スピードマスターN3聴解」 ポイント理解 9～17			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	5	「スピードマスターN3聴解」 概要理解 1～8			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	6	「スピードマスターN3聴解」 概要理解 9～16			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	7	「スピードマスターN3聴解」 発話表現			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	8	「スピードマスターN3聴解」 即時応答			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	9	「スピードマスターN3聴解」 第1回 模擬試験			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
	10	「スピードマスターN3聴解」 第2回 模擬試験			事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験(リスニング)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				50%
確認テスト		○		○		50%	
履修上の注意	各自、音声教材をダウンロードするなど、予習復習ができる環境を作ってください。						

科目名	作文 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	村上・柴藤・檜崎		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	『みんなの日本語』の学習進度に合わせて、習った言葉や文型を使って、様々なテーマについての作文を書く練習をする。原稿用紙の使い方を勉強する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				初級の言葉や文型を使って、文章の構成に注意しながら、自分の表現したいことを書くことができる。	
	○	○				原稿用紙の使い方のルールに沿って、作文を書くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	門脇薫・西馬薫 著 『みんなの日本語 やさしい作文』 スリーイーネットワーク 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	原稿用紙の使い方 ・ わたしの国・町			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	2	プレゼント			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	3	旅行			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	4	もしわたしが二人いたら			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	5	趣味			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	6	楽しい1日			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	7	日本でびっくりしたこと			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	8	わたしの夢			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	9	隣の人にひとこと			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	10	手紙			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
評価方法	(1)宿題を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	宿題	○	○		○		50%
履修上の注意							

科目名	読解 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	村上・柴藤・檜崎		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	日本語能力試験に出題される形式の問題を解くことで、試験形式に慣れるとともに、重要な言葉・表現などに注目しながら、文章の内容を理解し要点をつかむ方法を身につけることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				学習・生活・仕事に関連した話題・場面のやさしく書き下ろしたテキストを読んで、内容が理解できる。	
	○	○				日常的話題・場面を題材にやさしく書き下ろしたテキストを読んで、内容が理解できる。	
	○	○				やさしく書き下ろした案内やお知らせなどの情報素材の中から必要な情報を探し出すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・桑原里奈、木林理恵 著 『スピードマスターN4 読解』 Jリサーチ出版 2016年 ・渡邊亜子、菊池民子 著 『スピードマスターN3 読解』 Jリサーチ出版 2010年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「スピードマスターN4読解」 文章を読む基本練習			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	2	「スピードマスターN4読解」 短文 1～8			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	3	「スピードマスターN4読解」 短文 9～16			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	4	「スピードマスターN4読解」 短文 17～23			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	5	「スピードマスターN4読解」 中文			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	6	「スピードマスターN4読解」 情報検索			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	7	「スピードマスターN4読解」 模擬試験			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	8	N3問題に挑戦① 「スピードマスターN3読解」短文			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	9	N3問題に挑戦② 「スピードマスターN3読解」中文、長文			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
10	N3問題に挑戦③ 「スピードマスターN3読解」情報検索			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価をする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
確認テスト	○	○		○		50%	
履修上の注意							

科目名	文字語彙 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	村上・柴藤・檜崎		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	総合日本語でN4レベルの語彙を学習した後に、日本語能力試験対策として実施する。 日本語能力試験N3の問題を数多く解くことで、試験の傾向や特徴をつかみ、N3に合格できる語彙力を養成する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				漢字の読み方・書き方がわかる。	
	○	○				派生語や複合語を覚えて、使うことができる。	
	○	○				文に合った適切な言葉を選ぶことができる。	
	○	○				ある言葉や表現と意味的に近い言葉や表現を覚え、使うことができる。	
	○	○				ある語が文の中でどのように使われるか理解し、使うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	松浦真理子 鈴木健司 監修 『日本語パワードリルN3文字・語彙』 アスク出版 2010年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「日本語パワードリルN3文字語彙」1～3回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	2	「日本語パワードリルN3文字語彙」4～6回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	3	「日本語パワードリルN3文字語彙」7～9回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	4	「日本語パワードリルN3文字語彙」10～12回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	5	「日本語パワードリルN3文字語彙」13～15回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	6	「日本語パワードリルN3文字語彙」16～18回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	7	「日本語パワードリルN3文字語彙」19～21回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	8	「日本語パワードリルN3文字語彙」22～24回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	9	「日本語パワードリルN3文字語彙」25～27回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
10	「日本語パワードリルN3文字語彙」28～30回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)			
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
小テスト	○	○		○		50%	
履修上の注意							